

# 神鋼アクテック株式会社

## 2022 年度 環境経営レポート

(対象期間 2022 年4月1日～ 2023 年3月31日)

脱臭素材の専門会社

高性能フィルターや脱臭装置の製造販売を通じて、  
さまざまな快適環境の実現に貢献しています。

脱臭 オゾン分解 油煙除去

付加価値の高い機能材

### 新たな快適環境をめざして

ニオイでお困りではありませんか？ 神鋼アクテックでは、脱臭・オゾン分解・油煙除去などの高機能フィルターや脱臭装置の製造販売を通じて、家庭やオフィスから工場に至るまでさまざまな快適環境の実現に貢献しています。

*Create The Future*



認証番号0003635

発行日： 2023年4月15日

□目次

項 目	ページ
表紙	1
目次	2
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
認証・登録の対象組織・活動	4
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績(日高工場)	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～13
主な環境負荷の実績(大阪本社、東京営業所)	14
環境経営目標及びその実績(大阪本社、東京営業所)	14
環境経営計画の取組結果とその評価(大阪本社、東京営業所)	14
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	15
外部からの環境上の苦情・要望等	15
緊急事態対応訓練	15
代表者による全体の評価と見直し・指示	16
これまでの環境活動の紹介	17
編集後記	17

## □ごあいさつ

神鋼アクテック株式会社は、環境改善のための各種フィルター製品と、その応用機器を製造販売しています。家庭、オフィス空間から、工場排気に至るまで、快適環境作りのお役に立つことを目標としています。2008年9月から本格的な環境活動を開始し、2009年5月に生産工場がエコアクション21の認証を取得しました。また、2013年1月からは大阪本社・東京営業所を含めた活動を展開しています。環境測定データ及び取組状況を定期的に確認し、更なる環境負荷低減が可能な負荷を抽出しています。全社従業員ひとりひとりが目標を持って行動することを宣言し、改善活動に取り組んでいます。

神鋼アクテック(株) 日高工場・大阪本社・東京営業所

## 環境方針

### (基本理念)

当社の製品を製造する日高工場は、兵庫県の北東部に位置し、北は日本海を望み、間近に広大な円山川が悠然と流れ、近隣の山岳には登山やスキーで有名な氷ノ山・鉢伏山や神鍋山があり、また、特別天然記念物のコウノトリが放鳥され野生復帰を進めており、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれています。

当社は各種製品の製造・販売に当たり、豊かな自然環境を守り地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて社内外の環境改善に積極的に取り組みます。

### (基本方針)

1. 環境に関する法規制・条例など、当社内外の要求事項を遵守し、地球環境を守ります。
2. 事業活動・製品が環境に与える影響を的確に把握し、環境方針に基づいて環境目標を定めて、また定期的に見直して、環境改善活動を継続推進し環境汚染の予防に努めます。
3. 以下の項目を重点に取り組みます。
  - 1) 二酸化炭素排出量の削減(日高工場、大阪本社、東京営業所)  
・省エネルギー推進(電力、化石燃料等)
  - 2) 産業廃棄物の適切な処理と削減(日高工場、大阪本社、東京営業所)
  - 3) 有害化学物質使用量の削減(日高工場)
  - 4) 省資源化の推進
  - 5) 水の削減(日高工場、大阪本社、東京営業所)
  - 6) 環境教育や啓発活動・地域貢献活動の推進(日高工場、大阪本社、東京営業所)
4. この環境方針は、社内の適所に掲示し全従業員に周知徹底すると共に、一般に公開します。

制定日:2008年08月01日

改定日:2021年04月01日

神鋼アクテック株式会社 日高工場

工場長 井元 宏明

## □組織の概要

更新日：2023年4月15日

(1) 名称及び代表者名

神鋼アクテック株式会社  
日高工場長 井元宏明

(2) 所在地

日高工場 兵庫県豊岡市日高町岩中682番地  
 宵田倉庫 兵庫県豊岡市日高町岩中宇中坪138-1 (組織上は日高工場に所属)  
 大阪本社 大阪府大阪市西区靱本町1丁目11番7号信濃橋三井ビルディング11階  
 東京営業所 東京都台東区上野5丁目15番14号ONEST上野御徒町ビル2階  
 技術開発部 神奈川県藤沢市宮前100-1(㈱神戸製鋼所藤沢事業所内)

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 日高工場製造課長 橋本 裕之 TEL:0796-42-1212  
 担当者 日高工場製造課設備Gr長 池田 智史 TEL:0796-42-1212

(4) 事業内容

高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売

(5) 事業の規模

売上高 1,331 百万円

	日高工場	大阪本社	東京営業所	技術開発部	合計
従業員 名	47 名	8 名	4 名	9 名	68名
延べ床面積 m <sup>2</sup>	16474 m <sup>2</sup>	87.6 m <sup>2</sup>	117.1 m <sup>2</sup>	90 m <sup>2</sup>	16,769m <sup>2</sup>

(6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 神鋼アクテック株式会社  
 対象事業所: 日高工場

大阪本社  
 東京営業所  
 対象外: 技術開発部 (㈱神戸製鋼所藤沢事業所内で環境活動に取組中)  
 活動: 高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売



## □事業や製品(商品)の紹介

神鋼アクテック株式会社は、「におい」と環境を科学する脱臭素材の専門会社です。

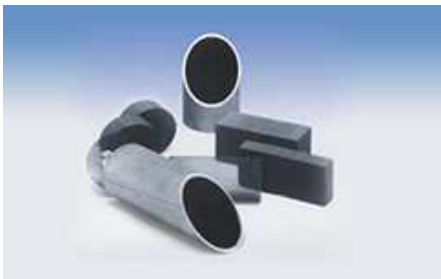
### 高機能材ハニカム

吸着剤による吸脱着作用や触媒分解作用により成分を吸着、分解することができます。



#### **品名: 厨房排気用脱臭ハニカム KDH**

飲食店の厨房や食品加工工場から発生する調理排気臭の脱臭に最適です。



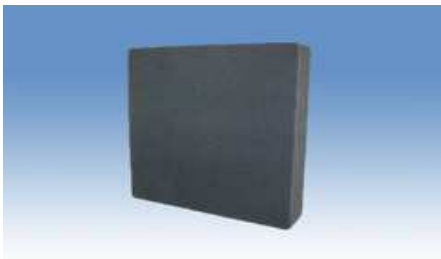
#### **品名: 各種触媒ハニカム AKH**

ご要望に応じて最適なフィルタをご提案致します。



#### **品名: 厨房排気用脱臭フィルタ KCU**

中小規模飲食店舗などから発生する調理排気臭の脱臭に最適です。



#### **品名: 活性炭ハニカム ACH**

脱臭、微量ガスの除去、空気清浄、触媒担体など様々な用途に応じます。

## 片面溶接用裏当て材

片面溶接を行なう際に使用し、良好で健全な裏ビードが得られます。



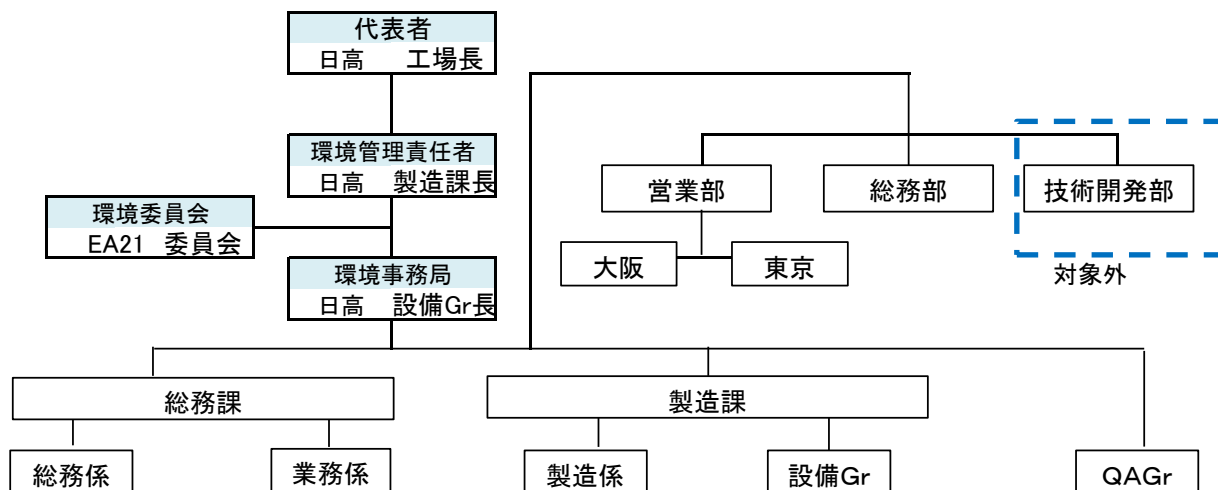
**品名: FA-B1**



**品名: FB-B3**

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年4月15日



区分	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境経営方針の策定・見直し</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直し、指示</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、日高の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営計画の審議</li> <li>環境活動実績の確認・評価</li> </ul>
部門長 係長 Gr長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## □主な環境負荷の実績(日高工場)

項目	単位	2020年	2021年	2022年
生産量(高機能)	トン	135.9	166.9	175.2
生産量(裏当て)	トン	357.4	258.5	235.0
二酸化炭素総排出量	t-CO <sub>2</sub>	447.5	511.0	518.3
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	6,468	6,171	5,694
産業廃棄物排出量	kg	27,790	50,501	38,410
総排水量	m <sup>3</sup>	1,804	2,276	1,940

※二酸化炭素排出係数 0.00042 t-CO<sub>2</sub>/kWh 電力会社の調整後の係数

## □環境経営目標及びその実績

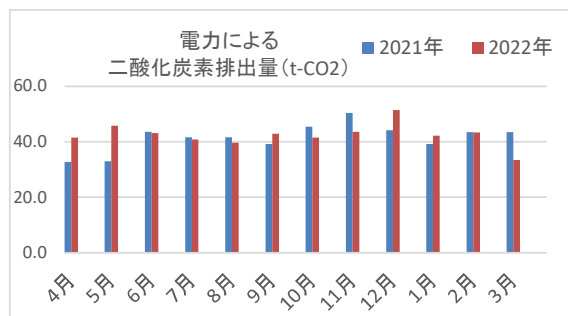
項目	年度	2021年		2022年		評価	2023年		2024年	
		(基準値)		上段: 排出量 下段: 原単位						
		(基準値)原単位	(目標)	(実績)	(目標)		(目標)	(目標)		
電力による二酸化炭素排出量削減	t-CO <sub>2</sub>	497.6	492.7	508.8						
	基準年度比	100%	99%	102%						
	t-CO <sub>2</sub> /t	1.17	1.16	1.24	×	1.15	1.13			
フォーリフト・トラックによる二酸化炭素排出量削減	t-CO <sub>2</sub>	1.80	1.78	0.74						
	基準年度比	100%	99%	41%						
	t-CO <sub>2</sub> /t	0.0042	0.0042	0.0018	○	0.0041	0.0041			
LPGによる二酸化炭素排出量削減	t-CO <sub>2</sub>	2.48	2.45	3.48						
	基準年度比	100%	99%	140%						
	t-CO <sub>2</sub> /t	0.0096	0.0095	0.0148	×	0.0094	0.0093			
灯油による二酸化炭素排出量削減	t-CO <sub>2</sub>	9.39	9.29	5.23						
	基準年度比	100%	99%	56%						
	t-CO <sub>2</sub> /t	0.0221	0.0218	0.0127	○	0.0216	0.0214			
上記二酸化炭素排出量合計	t-CO <sub>2</sub>	511.3	506.2	518.2		489	484			
一般廃棄物の削減	kg	6,171	6,109	5,694						
	基準年度比	100%	99%	92%						
	kg/t	14.5	14.4	13.9	○	14.2	14.1			
上記一般廃棄物排出量合計	kg	6,171	6,109	5,694		6,048	5,986			
	(高機能)産業廃棄物の削減	kg	47,400	46,926	32,130					
		基準年度比	100%	99%	68%					
kg/t		284.1	281.2	183.3	○	278.4	275.5			
(裏当て)産業廃棄物の削減	kg	980	970	4,730						
	基準年度比	100%	99%	483%						
	kg/t	3.8	3.8	20.1	×	3.7	3.7			
(その他)産業廃棄物の削減	kg	2,121	2,100	2,430						
	基準年度比	100%	99%	115%						
	kg/t	4.99	4.94	5.9	×	4.89	4.84			
上記産業廃棄物排出量合計	kg	50,501	49,996	39,290		49,491	48,986			
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	2,276	2,253	1,940						
	基準年度比	100%	99%	85%						
	m <sup>3</sup> /t	5.4	5.3	4.7	○	5.2	5.2			
上記水道水排出量合計	m <sup>3</sup>	2,276	2,253	1,940		2,231	2,208			
	マンガン使用量削減	kg	8,546	8,461	10,551					
		基準年度比	100%	99%	123%					
kg/t		51.2	50.7	60.2	×	50.2	49.7			
上記マンガン排出量合計	kg	8,546	8,461	10,551		8,376	8,290			
	コピー用紙使用量(A4)	枚	175,000	175,000	190,000	×	190,000	190,000		
	環境に配慮した生産活動								行動目標(次項による)	

## □環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

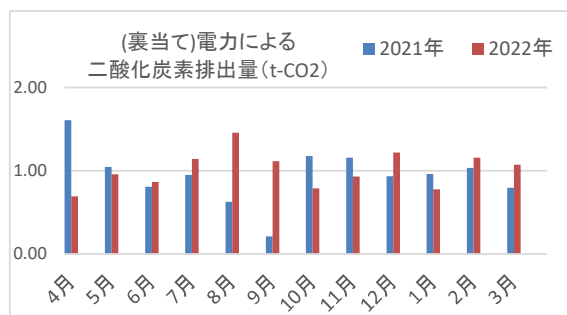
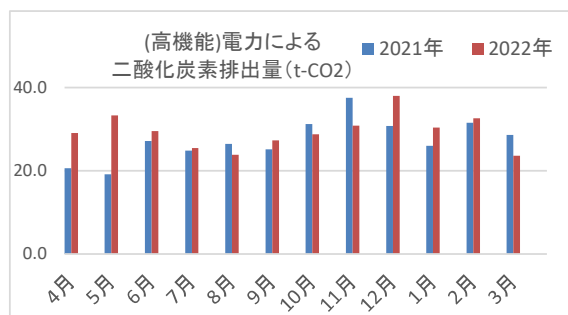
数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価]
・生産性、歩留り予算の必達～向上	△	年間を通じて、目標値を超過した結果となった。電力を多く使用する大型乾燥炉の運転が多く、原単位を抑えることが難しかった。売上高原単位もt-CO2の増加の影響が大きく、増加となった。 [次年度の取組計画] 2023年度は目標値を達成できるように改善策を模索していく。
・焼成炉、乾燥炉の時間調整によるデマンド平準化	○	
・ラインのチョコ停対策	△	
・照明のこまめな消灯	○	
・集塵機フィルタ清掃	○	



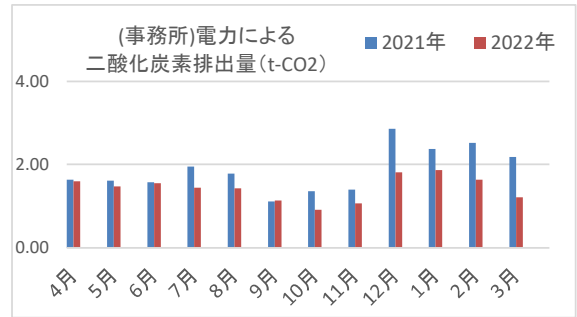
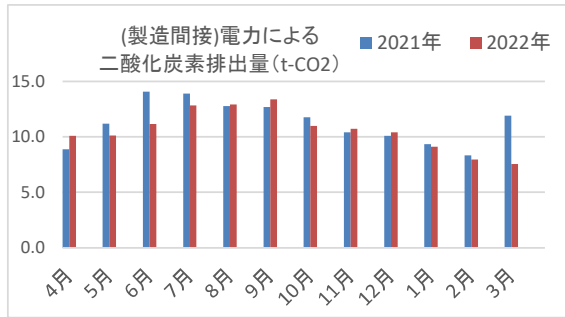
電力	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	32.7	33.0	43.5	41.6	41.6	39.1	45.4	50.4	44.2	39.2	43.4	43.5
合計	497.6	t-CO2	総生産量	425	t	原単位	1.17	t-CO2/t				
2022年	41.5	45.8	43.0	40.8	39.6	42.9	41.5	43.5	51.4	42.1	43.3	33.4
合計	508.8	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	1.24	t-CO2/t	106%	(原単位2020年度比)		



高機能	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	20.6	19.1	27.1	24.8	26.5	25.2	31.2	37.5	30.8	26.0	31.5	28.6
合計	328.9	t-CO2	生産量	167	t	原単位	1.97	t-CO2/t				
2022年	29.1	33.3	29.5	25.4	23.8	27.3	28.8	30.8	37.9	30.4	32.6	23.6
合計	352.5	t-CO2	生産量	175	t	原単位	2.01	t-CO2/t	102%	(原単位2020年度比)		

裏当て	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	1.61	1.05	0.81	0.95	0.63	0.21	1.18	1.16	0.94	0.96	1.03	0.80
合計	11.3	t-CO2	生産量	259	t	原単位	0.04	t-CO2/t				
2022年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	12.2	t-CO2	生産量	235	t	原単位	0.05	t-CO2/t	118%	(原単位2020年度比)		

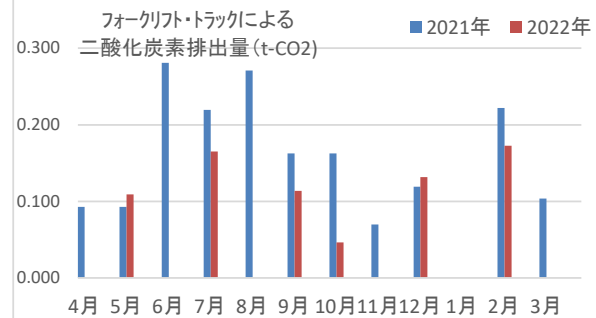




間接	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	8.9	11.2	14.0	13.9	12.7	12.7	11.7	10.4	10.1	9.3	8.3	11.9
合計	135.1	t-CO2	総生産量	425	t	原単位	0.32	t-CO2/t				
2022年	10.1	10.1	11.1	12.8	12.9	13.4	11.0	10.7	10.4	9.1	7.9	7.5
合計	127.0	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	0.31	t-CO2/t	97%	(原単位2020年度比)		

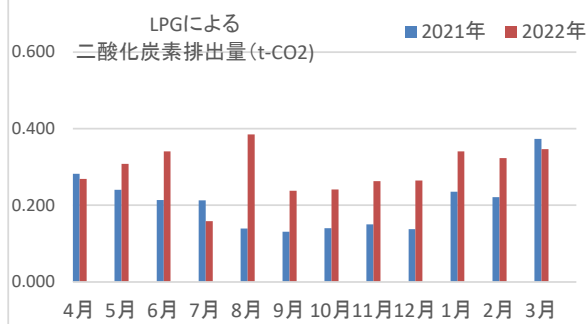
事務所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	1.64	1.61	1.57	1.95	1.78	1.11	1.36	1.39	2.86	2.37	2.51	2.18
合計	22.3	t-CO2	総生産量	425	t	原単位	0.05	t-CO2/t				
2022年	1.59	1.47	1.55	1.44	1.43	1.13	0.91	1.07	1.81	1.86	1.64	1.21
合計	17.1	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	0.04	t-CO2/t	79%	(原単位2020年度比)		

フォークリフト・トラックによる二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 年間を通じて目標値以下に抑えることが出来た。昨年の10月より製品・原料運搬にはリーチフォークのみ使用し、エンジンフォークの使用を廃止したことでガソリン使用量の更なる抑制につながったと思われる。また、安全面・作業効率を考慮したレイアウト変更もおこなった影響もあったと思われる。 [次年度の取組計画] 2023年度以降も引き続き省エネ活動をすすめる。
・省エネ運転の教宣	○	
・効率的な荷役作業	○	



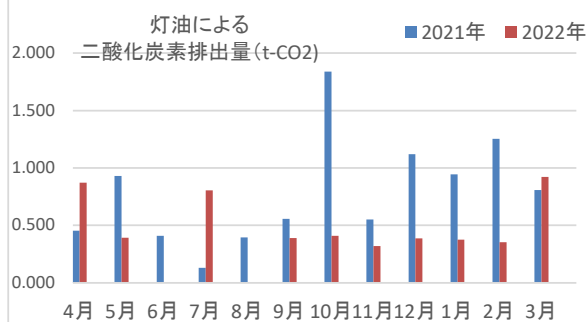
フォーク・トラック	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.093	0.093	0.281	0.219	0.271	0.162	0.162	0.070	0.119	0.000	0.222	0.103
合計	1.8	t-CO2	総生産量	425	t	原単位	0.004	t-CO2/t				
2022年	0.000	0.109	0.000	0.165	0.000	0.114	0.046	0.000	0.132	0.000	0.173	0.000
合計	0.7	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	0.002	t-CO2/t	43%	(原単位2020年度比)		

LPGによる二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 年間を通じて、ガス使用量が基準年を超過した。主にOJT教育及び連操の減少が原因と思われる。 [次年度の取組計画] 2023年度はOJT教育が終了する計画なので更なるガス使用量低下活動を推進する。
・昼休みの連操の実施	×	
・機器の放熱(保温)対策の実施	○	



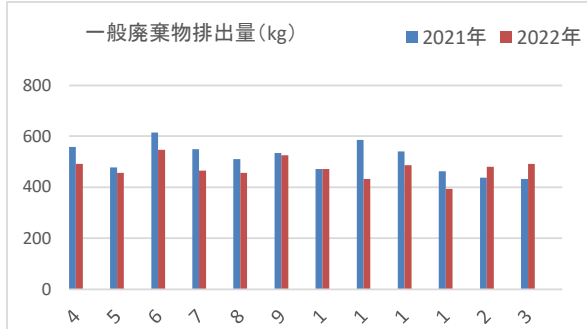
LPG	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.282	0.240	0.213	0.213	0.139	0.131	0.140	0.150	0.137	0.235	0.221	0.373
合計	2.5	t-CO2	生産量	259	t	原単位	0.010	t-CO2/t				
2022年	0.269	0.308	0.340	0.158	0.385	0.238	0.241	0.263	0.265	0.340	0.323	0.346
合計	3.5	t-CO2	生産量	235	t	原単位	0.015	t-CO2/t	154%	(原単位2020年度比)		

灯油による二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 年間を通じて使用量は抑えることが出来た。2022年度はボイラーの省エネ運転を開始した効果により灯油の使用量を抑えることが出来た。 [次年度の取組計画] 2023年度も引き続き活動を進める。
・ボイラー温度設定の制限	○	
・休日はボイラーを停止する	○	
・夏季はシャワーのみ使用	○	



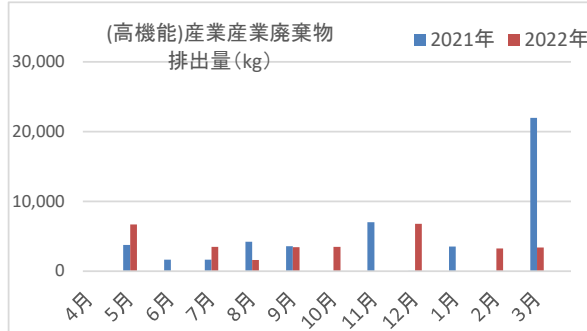
灯油	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.453	0.931	0.408	0.129	0.396	0.558	1.838	0.550	1.121	0.944	1.252	0.807
合計	9.4	t-CO2	生産量	425	t	原単位	0.022	t-CO2/t				
2022年	0.872	0.393	0.000	0.804	0.000	0.391	0.408	0.321	0.388	0.376	0.354	0.921
合計	5.2	t-CO2	生産量	410	t	原単位	0.013	t-CO2/t	58%	(原単位2020年度比)		

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 年間を通じて若干量ではあるが、目標値と比べて一般廃棄物量が減少した。 [次年度の取組計画] 2023年度も引き続き活動をすすめる。
・分別の徹底	○	



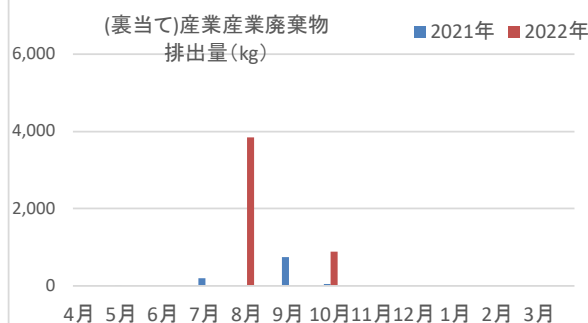
一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	558	477	615	549	510	534	471	585	540	462	438	432
合計	6,171	kg	生産量	425	t	原単位	14.5	kg/t				
2022年	492	456	546	465	456	525	471	432	486	393	480	492
合計	5,694	kg	生産量	410	t	原単位	13.9	kg/t	96%	(原単位2020年度比)		

(高機能)産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] トータルでは基準年以下に抑えることが出来たが、基準年(昨年度)は水処理施設の堆積汚泥を処理し大量の廃棄が発生した影響が大きいため比較にならない。 [次年度の取組計画] 2023年度も引き続き廃棄物低減活動を進める。
・混合廃棄物分別による廃棄量の削減	△	
・素材別ボックスの設置	○	
・リサイクル業者の開拓		



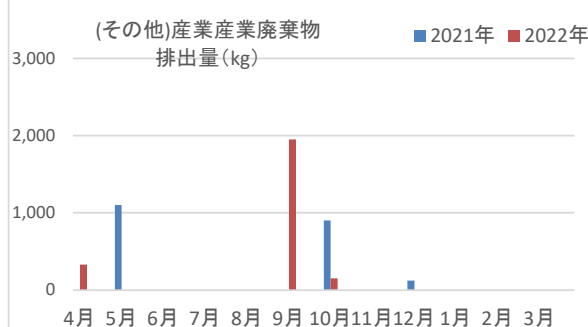
産廃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0	3,780	1,670	1,670	4,200	3,570	0	7,010	30	3,510	0	21,960
合計	47,400	kg	生産量	167	t	原単位	284.1	kg/t				
2022年	0	6,710	0	3,480	1,610	3,430	3,490	0	6,780	0	3,250	3,380
合計	32,130	kg	生産量	175	t	原単位	183.3	kg/t	65%	(原単位2020年度比)		

(裏当て)産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 年間を通じて目標値を大きく超過した結果となった。
・作業ミスによる廃棄量の削減	△	[次年度の取組計画] コントロールは難しいが、2023年度も引き続き活動を継続し、不良品の抑制など廃棄量削減に努める。
・素材別ボックスの設置	○	



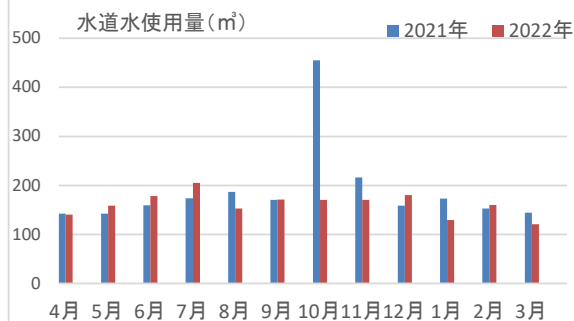
裏当て	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0	10	0	190	0	740	40	0	0	0	0	0
合計	980	kg	生産量	259	t	原単位	3.8	kg/t				
2022年	0	0	0	0	3,850	0	880	0	0	0	0	0
合計	4,730	kg	生産量	235	t	原単位	20.1	kg/t	531%	(原単位2020年度比)		

(その他)産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 昨年に比べ累計値で若干の増加となった。混合廃棄物の廃棄はコンテナに保管し一定量に到達時廃棄しているため不定期実施となっている。
・混合廃棄物分別による廃棄量の削減	△	[次年度の取組計画] 2023年度も引き続き活動を継続し、廃棄量削減に努める。
・素材別ボックスの設置	○	
・リサイクル業者の開拓	△	



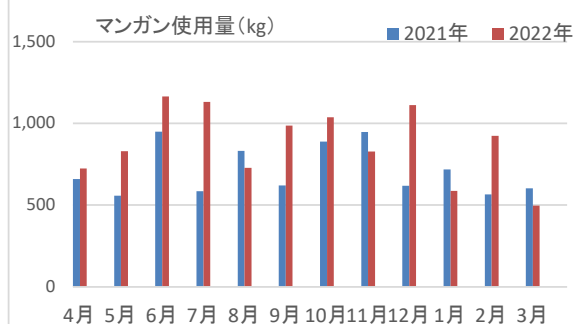
その他	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0	1,100	0	0	0	0	900	0	121	0	0	0
合計	2,121	kg	生産量	425	t	原単位	5.0	kg/t				
2022年	330	0	0	0	0	1,950	150	0	0	0	0	0
合計	2,430	kg	生産量	410	t	原単位	5.9	kg/t	119%	(原単位2020年度比)		

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 年間を通じて、上期は目標値を超過したが下期は抑えた結果となった。工場棟での使用量の影響が大きく、下期は減少したことが起因していると考えられる。また、今年度は漏洩などのトラブルがなく安定した使用量を達成することが出来た。 [次年度の取組計画] 2023年度も目標値を達成するように活動する。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	△	
・自動水栓取り付け	△	
【目標未達成時の挽回策】	○	



水道	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	143	142	159	174	187	171	455	216	159	173	153	145
合計	2,276	m³	生産量	425	t	原単位	5.4	m³/t				
2022年	141	159	179	206	153	171	171	170	181	129	160	121
合計	1,940	m³	生産量	410	t	原単位	4.7	m³/t	88%	(原単位2020年度比)		

マンガン使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 添着機コンベアの連動化により不明原料が大幅に減少した。しかしAKH13LFU 20t からAKH13FU1 15tへ切替の際の添着液濃度調整で切替え時間と濃度調整が上手く出来なかった時に液新液へ入替えをされておりロスが発生している。 [次年度の取組計画] 現状作業と作業標準がアンマッチのため、2023年度は早急な見直しが必要である。
・添着作業方法の見直し	○	
・押出〜バリ取り作業方法の見直し	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	△	
【目標未達成時の挽回策】	△	



マンガン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	660	559	950	585	831	621	889	947	617	719	567	603
合計	8,546	kg	生産量	167	t	原単位	51.2	kg/t				
2022年	723	831	1,165	1,132	728	987	1,037	828	1,112	586	925	497
合計	10,551	kg	生産量	175	t	原単位	60.2	kg/t	118%	(原単位2020年度比)		

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・不良率低減	○	[取組結果とその評価] 試験生産での廃却原料以外に大きく減失している原料は無い。 [次年度の取組計画] 廃却の原因となる不良発生(目切れ目欠け)を抑える方法として2023年度もフラックスの保管方法を検討する。
・稼働率向上	△	
・顧客クレーム削減(品質の安定化)	△	
・廃棄率削減	△	

## □主な環境負荷の実績(大阪本社/東京)

項目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量				
大阪本社	t-CO2	2.8	2.6	2.7
東京営業所	t-CO2	3.5	3.1	3.0
コピー用紙使用量(A4)				
大阪本社	枚	55,000	44,499	43,815
東京営業所	枚	25,000	10,400	3,021

※二酸化炭素排出係数 0.00042 t-CO2/kWh 電力会社の調整後の係数(大阪)  
0.00048 t-CO2/kWh 電力会社の調整後の係数(東京)

## □環境経営目標及びその実績

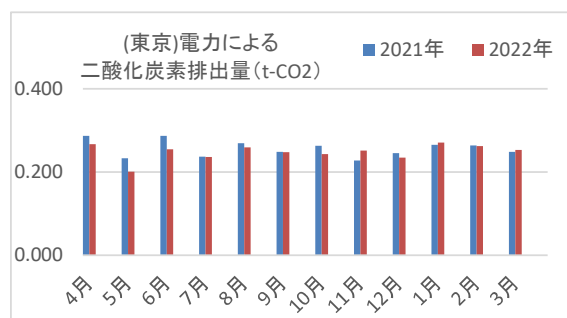
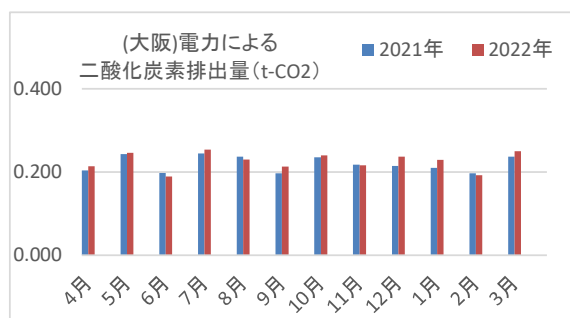
項目	年度	2021年		2022年		評価	2023年	2024年
		(基準年)	上段: 排出量	上段: 排出量	下段: 排出量		(目標)	(目標)
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)		(目標)	
電力による二酸化炭素排出量削減(大阪)	t-CO2	2.6	2.6	2.7	×	2.6	2.6	
	基準年度比	100%	99%	103%		98%	97%	
電力による二酸化炭素排出量削減(東京)	t-CO2	3.1	3.0	3.0	○	3.0	3.0	
	基準年度比	100%	99%	97%		98%	97%	
上記二酸化炭素排出量合計	t-CO2	5,707	5,650	5,686		5,593	5,535	
コピー用紙使用量削減(大阪)	枚	44,499	44,054	43,815	○	43,609	43,164	
	基準年度比	100%	99%	98%		98%	97%	
コピー用紙使用量削減(東京)	枚	10,400	10,296	3,021	○	10,192	10,088	
	基準年度比	100%	99%	29%		98%	97%	
上記コピー用紙使用量合計	枚	54,899	54,350	46,836		53,801	53,252	

## □環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(大阪、東京)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価]
・こまめな消灯の実施	○	大阪は若干の増加、東京は目標よりも抑えることが出来た。 [次年度の取組計画] 2023年度も節電活動を継続する。
・事務所温度管理の徹底	○	
・啓蒙活動による節電意識の向上	○	



大阪	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.204	0.243	0.197	0.245	0.237	0.197	0.235	0.217	0.215	0.210	0.196	0.237
合計	2.6	t-CO2										
2022年	0.214	0.246	0.189	0.253	0.229	0.213	0.240	0.216	0.237	0.229	0.192	0.250
合計	2.7	t-CO2	103%	(2019年度比)								

東京	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.287	0.233	0.287	0.237	0.269	0.248	0.263	0.228	0.245	0.265	0.264	0.248
合計	3.1	t-CO2										
2022年	0.266	0.200	0.255	0.236	0.259	0.247	0.243	0.251	0.234	0.271	0.262	0.253
合計	3.0	t-CO2	97%	(2019年度比)								

**□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無**  
 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項	日高工場		大阪本社		東京営業所	
		該当	評価	該当	評価	該当	評価
廃棄物処理法	契約書、マニフェスト交付状況報告、適正処理	○	○	-	-	-	-
PCB特措法	適正処理、保管及び処分状況の報告	○	○	-	-	-	-
騒音規制法	特定施設等の届出	○	○	-	-	-	-
振動規制法	特定施設等の届出	○	○	-	-	-	-
水質汚濁法	排出基準の遵守	○	○	-	-	-	-
下水道法	排出基準の遵守	○	○	-	-	-	-
消防法(危険物)	消火設備及び危険物の管理	○	○	-	-	-	-
フロン排出抑制法	フロン類の回収・排出量の報告	○	○	-	-	-	-
PRTR法	排出量及び移動量の報告	○	○	-	-	-	-
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物の管理	○	○	-	-	-	-
家電リサイクル法	適正処理	○	○	○	○	○	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。  
 なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

**□外部からの環境上の苦情・要望等**

外部からの環境上の苦情・要望等はありませんでした。

**□緊急事態対応の試行・訓練**

**緊急事態の想定： 地震の発生**

■実施日： 2022/9/30、2023/3/24      ■実施場所：日高工場

■参加者： 日高工場従業員

■実施内容： 通報訓練 消火訓練 避難訓練  
 工場稼働中に震度5強の地震が発生した場合を想定し、①地震発生時の初期行動②本震後の行動③避難場所での行動④消火器による消火訓練を実施しました。

■評価： **☑手順書の評価(予定より粉末消火設備の訓練時間が延びた。手順の見直しを図る)**  
 各工程ごとに配置した管理担当者を中心に班編成をおこない、地震発生時の二次災害防止のための安全確認を実施しています。今回も地震時の停電を想定し天井照明を消灯し避難をおこないました。  
 消火訓練では、訓練用消火器の消火訓練、粉末消火設備の取り扱い訓練、消火栓放水訓練をおこないました。

■実施状況の様子





**緊急事態の想定： 汚水流出事故の発生**

■実施日： 2022/9/30      ■実施場所：日高工場

■参加者： 係長、リーダー、サブリーダー、従業員選抜      ■実施内容：  
 ・流出事故対応

■評価： **☑手順書の評価(予定通り実施・周知することが出来た。手順の見直しは無し)**  
 サブリーダー以上及び従業員選抜を対象に、工場敷地外への汚水流出防止ゲートの取り扱い訓練を実施しました。  
 また、新規作業場の使用方法の訓練、防液堤点検の訓練をおこないました。

■実施状況の様子




## □代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2023年4月15日

### [環境方針]

現方針を継続します。特に自然環境を守り地球環境保全を重視する豊岡市に所在する日高工場は「環境に配慮した生産活動」や「社会との共生・協調」が求められています。2023年度も引き続き生産活動の基本である生産性・歩留の向上を目指した活動を機軸に、重点課題に取り組んでいきます。

### [目標・環境経営計画]

- ①年、半期、月、週、日等適切な時間単位で現状を測定、記録し、設定した目標は過去の実績と比較、考察を通し、改善策を立案します。
- ②工場では製品の品種構成や生産量の変化に的確かつ継続的に実績が評価できる様、引き続き改善を繰り返して行きます。
- ③本社・営業所は設定した目標の達成に向け、活動を継続していきます。
- ④技術開発部は、神鋼 藤沢事業所内での環境活動に参画し、環境活動を継続していきます。

#### (1)日高工場

- ・活動メンバーの見直しや環境パトロールを実施して、環境意識の向上や改善活動の活性化に取り組んでいきます。
- ・下記のこれまでの活動をレビューし継続と改善に注力していきます。

#### a.二酸化炭素排出量の削減

EA21委員会・省エネパトロールの継続・実施  
電力使用量の監視と削減課題の抽出・対策検討実施  
LPガス・灯油使用量の監視と削減策の維持・継続

#### b.原材料・副資材の原単位低減と、製品・仕掛品の不良廃棄量の削減

廃棄物の適正な処理と管理  
原材料と副資材の廃棄量監視と削減活動  
製品・仕掛品不良発生量と廃棄量の監視と削減活動

#### c.節水と有害化学物質の使用量削減活動

水使用量の監視と節水・使用量削減活動の継続  
化学物質のリスクアセスメントの確実な実施

#### d.関係法令の順守、その他

遵法意識の定着  
法令改正等の適時確認

#### e.地域社会との共存共栄

地域貢献活動(工場周辺清掃や環境ハイキング)の継続  
CSR活動の推進

#### (2)大阪本社、東京営業所

- ・下記のこれまでの活動をレビューし、継続と改善に注力していきます。

#### a.省エネ(電力使用量の削減)

#### b.廃棄物(紙、ペットボトル、缶などの分別の徹底)

#### c.有価物(資源化回収の増加)

#### d.省資源(コピー用紙(A4)使用量の削減)

#### e.水(共同施設での水使用量の節水活動の徹底と啓発)

環境防災訓練:環境災害を未然に防止するため、実地訓練を検討し、防災対策の有効性向上を図っていきます。

環境活動レポート:環境活動がより分かりやすく公表できる様に工夫と改善を図っていきます。

事業を取り巻く状況:新モデル対応も進んでいるが、ユーザーの海外調達化による数量減が見込まれている。

経営における課題:会社黎明期からの従業員が雇用終了とここ数年のキャリア採用の結果、勤続10年未満が約70%を占めており、技能継承が課題である。

経営におけるチャンス:足下の好調な業績で、設備投資や研究開発の推進を実施しやすい状況にある。

### **【2022年度活動の評価】**

**活動状態を相互にチェックし、活動のスパイラルアップに繋げ、次回、EA21認証継続できるように取り組んで下さい。**

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり



## □これまでの環境活動の紹介

<b>工場周辺の清掃活動:</b>	
■実施日: 1回/月	■実施場所: 工場周辺
■参加者: 日高工場従業員(環境委員会、総務係)	
■実施内容: 月に一回、従業員による工場周辺の清掃をおこない、工場周辺の美化に努めています。	
■実施状況の様子	
	

<b>地域清掃活動:</b>	
■実施日: 2回/年	■実施場所: 豊岡市内
■参加者: 日高工場従業員(有志)	
■実施内容: 年に二回、従業員の有志で地域のボランティア活動に参加して、地域の美化や交流に努めています。	
■実施状況の様子	
	

<b>工場5S活動</b>	
■実施日: 1回/月	■実施場所: 工場内
■参加者: 日高工場従業員(全員)	
■実施内容: 月に1回、工場従業員全員で工場5S活動を実施しています。 工場内の整理整頓や作業環境の改善をおこなっています。廃棄物の分別に徹底的に取り組み低減に努めています。	
■実施状況の様子	
	

## □編集後記

2022年度は工場の作業場レイアウト変更をおこないました。作業効率改善に加え、現場の安全確保につながりました。また前年度に引き続き暑熱対策として現場にエリア空調機を導入しました。ウォームビズも開始し効果が見られています。2023年度もよりよい作業環境づくり及び省エネにもつながる取り組みを引き続き探していきます。

担当者 池田智史